

風水害時の対応



写真提供 / (財)消防科学総合センター <http://www.isad.or.jp>

① 早めの避難が命を守る

- とにかく早めの避難が大事!自分のところは大丈夫という意識を捨てて空振りでも良いので避難することで命を守りましょう。

弱 ↑ 強制力 ↓ 強	情報収集	「危険」や「気配」を感じた場合、避難勧告などの情報を待たずに自ら判断して早めに避難してください。台風、大雨の時は気象情報(テレビ、ラジオ等)をこまめにチェック、またインターネットを活用し気象庁や民間の気象情報サービスを確認してください。普段からアクセスして慣れておくことも大切です。
	避難準備情報	「避難勧告」や「避難指示」を行うことが予想される場合に「避難準備情報」が発令されます。高齢者や要援護者などはこの時点で避難を開始し、周りの方は支援を始めてください。小さなお子さんがいる家庭も同様です。通常避難ができる方は、家族との連絡や非常用品持ち出しなどの避難準備を始めてください。
	避難勧告	災害による被害発生が予想され、人的被害が高まった場合に「避難勧告」が発令されます。避難行動を開始してください。
	避難指示	状況が悪化して災害による人的被害の危険性が非常に高まった場合や人的被害が発生した場合に「避難指示」が発令されます。ただちに避難を開始してください。

- 危険が迫った場合は、自宅を出て避難所に向かってください。蓋の外れたマンホールや側溝に転落しないよう注意し、単独行動は避けて、棒などで足下を確かめたりしながら歩いてください。夜間などの場合は特に気をつけてください。避難所に行くことだけが避難ではありません。
- すでに浸水していたら、マンホールや側溝に転落しないよう十分に注意し、ひざの上まで浸水しているなど外が危険な場合は無理をして避難所に行くことを避けて自宅や近くの2階以上に緊急的に避難し安全を確保してください。
- 冠水した道路を自動車で避難するのは危険なので絶対にしないでください。
- 自動車で移動していた場合はブレーキがききにくくなったり、濁流に流されたりする危険があるので、高台に避難移動して停車してください。アンダーパスなど周囲より低い場所は浸水している危険がきわめて高いので、回避してください。
※アンダーパスとは…立体交差で、鉄道や道路の下を通る地下道。

② 局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守る

近年は局地的大雨(ゲリラ豪雨)がしばしば発生しています。これは短時間に局地的に大雨をもたらす、甚大な被害をおよぼす可能性があります。狭い範囲で生じるため予報が困難で、早めの警戒が必要。特に川原での釣りやキャンプ、バーベキュー、また中小河川の近くは特に注意が必要です。またアンダーパス、周囲より低い道路なども局地的大雨の影響を受けやすいので特に注意が必要です。

前兆現象の例

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- 冷たい空気が吹き出す。
大粒の雨やひょうが降り出す。

③ 竜巻から身を守る

近年日本においても各地で竜巻が発生しやすくなっています。気象庁では竜巻が発生しやすい気象状況になると「竜巻注意情報」を発表して注意を呼び掛けています。

<身の守り方>

屋外

- 車庫、物置、プレハブなどに避難しない。
- 近くの頑丈な建物に避難する。
- 逃げ込める場所が無い場合は、近くの水路やくぼみに身を伏せて両腕で頭と首を守る。

屋内

- 雨戸、シャッター、カーテンを閉めて窓から離れる。
- 地下室や建物の最下階に移動する。
- 部屋の隅、ドア、外壁から離れる。
- 家の中心部に近い、窓の無い部屋に移動する。
- 頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。